様式１

令和5年度　調布市立染地小学校　学校経営計画（学校長　大柳　ひろみ）

学校の教育目標	
あたたかく（自他の尊重）たくましく（目標・ねばり強さ）まえむきに（主体的に）生きる子どもの育成	
目指す学校像（ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像	
「子ども一人一人が大切にされていることを実感できる」教育を基盤とし，達成感（「がんばってできた感」）を重ねながら「なりたい自分」を目指す児童が育つ学校 ＊深い児童理解に基づいた指導・支援をする学校…児童が目標をもつ場を保証し，「がんばってできた感」を得るまでの努力を親身になって指導・支援する。 ＊教職員が結束した学校　…経営方針に基づき，学校を創造する組織の一員として能力を発揮する。 ＊保護者・地域と協働する学校　…保護者・地域との連携及び協力を推進し，教育活動を充実していく。	
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	＊本校の子どもたちは心優しく穏やかな気風がある。学校生活や行事にも落ち着いて取り組んでいる。校外でも力を発揮できるよう，長所を伸ばし可能性を引き出して，自信と活力をもたせていく。そのために，議論の中心に「子ども」を据え，全教職員が，深い児童理解に基づいた適切な指導・支援の力を身に付けていく。 ＊学習・生活規律を定着させるとともに，基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けるための具体的取組を確立する。 ＊個別に支援を必要とする児童について，関係諸機関と連携を図りながら，その特性に応じた指導・支援の一層の充実を図る。 ＊経営方針に基づいて，教職員一人一人が，各自の職務において創造性を発揮する。 ＊保護者・地域とのネットワークを効果的に生かし，協力体制を構築する。
中期的な経営目標	
1　自他を尊重し思いやりを育てる道徳教育を推進し，いじめ及び学校が原因の不登校を０（ゼロ）にする。 2　基礎的・基本的な学習内容を身に付け，学力調査全教科を８５パーセント以上とする。 3　基本的な生活習慣の確立と運動することの楽しさを味わわせることによって，心と体の健康及び体力の向上を推進し，体力調査の結果を現状よりも上げる。 4　「みんなの子どもをみんなで育てる」学校づくりを推進し，学校の教育活動にかかわる保護者を全体の９割とする。 5　特別支援教育の推進を図り，教室で過ごせない児童を０（ゼロ）にする。	

調布市立学校における共通した領域 ＜短期的な経営目標＞		
1　豊かな心（徳）	**2　確かな学力（知）**	**3　健やかな体（体）**
(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）
①　多様な発表の場や交流の場を設定し，かかわりや体験を通して，児童の自己肯定感を高め，違いを受容して相手を大事にする態度を育む教育活動を充実させる。	①　全校で統一した学習の基盤（ルール・環境等）の指導を徹底し，学習効果を上げるとともに，目標を設定して達成に向けて主体的に取り組む態度を養う。	①　染地スタンダードを基に基本的な生活習慣の確立を図り，保健指導の実施や食育の推進を通して，健康な心と体への関心を高める。
②　児童が目標をもって取り組む活動の充実を図り，全教育活動において「がんばってできた感」の経験を積み重ねさせる。隔月に１回程度の「こころの日」を設定し，目標・挑戦・勇気・努力等をキーワードとした全校取組を実施する。	②　四教科を中心に，基礎・基本の定着を図る授業改善を進める。ICT の活用，校内研究（国語）による言語活動の工夫や読書活動の充実を図る授業を行う。	③　体育科学習の授業改善（運動の日常化・継続した取組）を進める。「ロング昼休み」を設定し，遊び場や楽しんで運動できる教具の整備及び時間を確保する。また縄跳び旬間や持久走旬間等の取組を通して，全校での運動の機会を設ける。
(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）
①　各学期に１回，児童アンケートを実施。「あいさつや言葉づかい」について肯定的回答８５％を目指す。また，学校評価アンケートで，いじめや不登校への対応への肯定的な回答 85%以上を目指す。	①　まとめのテスト（漢字・計算）を各学期末に全校取組として実施。目標値クリアの児童の割合において各学級８５％を目指す。	①　学校評価アンケートにおいて，基本的な生活習慣の定着や健康で健やかな体をつくる取組に関する肯定的な回答 85%以上を目指す。
②　学校評価アンケートにおいて，自他のよさを認める・目標をもってねばり強く取り組むことに関する肯定的な回答 85%以上を目指す。	②　各学期に１回の児童アンケートと保護者による学校評価アンケートを実施し，「授業が分かる」肯定的回答 85%を目指す。	②　体力テストから課題を見出し，改善を図る取組について学校評価アンケートで肯定的な回答８０％以上を目指す。また児童アンケートで運動に関する肯定的回答８０％を目指す。

学校の特色を生かした領域 ＜短期的な経営目標＞		
4　保護者・地域との連携	**5　特別支援教育**	**6**
(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）
①　保護者会や学校公開等の形態や機会の工夫，学校だより・ホームページ等を活用した積極的な発信によって，保護者・地域の理解と協力を得て共に育てる意識を高める。	①　異学年活動（たてわり班活動）や特別支援学級との双方向の交流活動を年間計画を立てて行い，多様な価値観を認め合い，自他を尊重する経験と理解を促進する。	
②　地域学校協働本部のコーディネート力を生かし，地域の学習資源を発掘し，授業ボランティアやゲストティーチャーの一層の活用，体験的学習の充実を図る。	②　特別な支援を必要とする児童に対しては合理的配慮委員会を開き，特別支援教室や特別支援学級とも連携し，個の特性やニーズに応じたきめ細やかな指導を充実させる。	
(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）
①　学校評価アンケートにおいて，学校と保護者の連携に関する肯定的な回答 85%以上を目指す。	①　学校評価アンケートにおいて，多様な価値観を認め合う指導や特別支援学級との交流に関する肯定的な回答８５％を目指す。	
②　学校評価アンケートにおいて，体験的な学習等の充実に関する肯定的な回答 80%以上を目指す。	②　学校評価アンケートにおいて，特別支援教育に関する肯定的評価８５％を目指す。	

人材育成・組織運営
・教職員の結束する力と協働する力の強さを組織運営に生かし，全教職員を学校運営に主体的に参画させる。 ・教員の指導力および資質の向上を組織的に図る。特に，経験年数の浅い教員の育成に力を入れ，初年次から一役一人の職務体制において実践から学ばせる。一人一人の責任の重さとそこから生まれる創意工夫を尊重し，学校の教育力を強化していく。 ・仕事の仕方を見直し「働き方改革」を推進。個人の仕事の精度を上げ無駄を省き児童に係る作業や授業準備・教材研究の時間を確保する。